

# 5月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

3年5月のDI値は先月に引き続き8指標中、主要3指標を含む7指標が上昇。「取引条件」においては、小幅ながら下落となった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

自動車販売整備業では引き続き需要が好調であった様子。また一部業種からも持ち直しの動きがあるとの明るい報告も寄せられた。

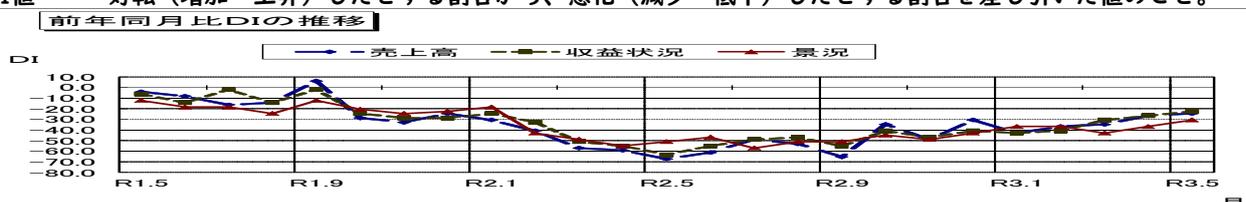
一方、高齢化や人材・後継者不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として原材料高や燃料価格の値上がりも続いている。加えて、長引く新型コロナウイルスの影響により、売上や集客を見込めず先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。またウッドショックによる価格高騰や在庫不足により国産材への需要が高まる反面、入手難による現場の遅れなども発生している。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	R2 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3 1月	2月	3月	4月	5月	前月比 増減
景況	-51.0	-46.9	-57.1	-51.0	-51.0	-44.9	-49.0	-42.9	-36.7	-36.7	-42.9	-36.7	-30.6	6.1
売上高	-67.3	-61.2	-49.0	-53.1	-65.3	-34.7	-49.0	-30.6	-42.9	-36.7	-34.7	-26.5	-24.5	2.0
収益状況	-63.3	-55.1	-49.0	-46.9	-55.1	-40.8	-46.9	-40.8	-42.9	-40.8	-30.6	-26.5	-22.4	4.1
販売価格	-2.0	-2.0	0.0	-6.1	-10.2	-8.2	-2.0	-6.1	0.0	-6.1	4.1	6.1	12.2	6.1
取引条件	-26.5	-18.4	-22.4	-18.4	-12.2	-18.4	-16.3	-12.2	-14.3	-12.2	-14.3	-16.3	-18.4	-2.1
資金繰り	-40.8	-36.7	-30.6	-20.4	-24.5	-18.4	-24.5	-24.5	-26.5	-24.5	-18.4	-26.5	-20.4	6.1
設備操業度	-14.3	-22.4	-16.3	-12.2	-18.4	-14.3	-16.3	-14.3	-16.3	-12.2	-12.2	-10.2	-6.1	4.1
雇用人員	-8.2	-10.2	-10.2	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	0.0	2.0	2.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味 噌・前年同月比、みその生産量は98.9%、出荷量は97.4%であった。前月比でみその生産量は91.6%、出荷量は92.2%と減少している。前年度同時期と同じ程度の緩やかな減少が続いている。コロナ禍が続いているとはいえ、減少の長期化が続いている。巣ごもり需要で一部の食料品の消費が増えており、みそ業界も新たな販路の開拓が今重要になってこよう。
2. 漬物・漬物製造業者においては前月と状況は変わらない。依然収益の低下が続いている。農家では農産物の輸入が減少しているため販売価格は好調であるが、納品先の企業の廃業・休業等で出荷数量の減少がみられる。

#### <繊維・同製品>

3. 縫製・繊維業界は、2020年は全般的に落ち込んでいたが、2021年予測では持ち直し傾向にあると判断している企業（大手）が多いが、中小企業にいたっては、油断できない状態である。原価面では、資材の値上げ要求が続いており、6月より新価格での納入となった。設備面では、日本製の機械設備がほとんどなく、海外品の購入に頼らざるを得ない状況は相変わらずであるので、納期面・購入価額面での不利益が多いが、数基導入予定である。生産については、従前と同じく次月以降分の製品備蓄を中心に展開している。

#### <木材・木製品>

4. 製材・新聞報道等で「ウッドショック」と報じられているように、外材の輸入量激減による木材不足から、4月以降木材価格が高騰している状況である。工務店が木材の確保のため、国産材メーカーに対して直接取引をオファーしている所も見られる。先行きについては、プライスリーダーとなっている県外の手製材メーカーが引き続き値上げを表明しており、木材価格はしばらく高止まりしそうである。
5. 製材・コロナ禍による「ウッドショック」による外材一部製品の品薄の状況である。
6. 木材・6月に入り原木丸太が非常に少ない。注文はかなり多い状態。金額も高騰中。
7. 木材・ウッドショックにより在庫不足、価格高騰、見積りが不安定なのが木材業界の現在の状況だ。

<印 刷>

8. 印 刷・相変わらずコロナ禍でイベント関連の印刷物がなくなり、官公庁の入札では激しい取り合いが続いている。更に5月は休みが多く売上も上がりにくく、益々厳しい状況である。
9. 印 刷・昨年の5月は緊急事態宣言の余波もあり売上・収益とも散々であったため昨年の5月と比べると売上・収益とも良かったという企業が多かった。只、例年の5月に比べると10%ぐらい落ちている企業が多数を占めた。救いは雇用調整助成金の7月までの延長と一般企業からの受注が少し持ち直してきたことである。

<窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・5月は昨年同月と比較して約22%減少。5月は例年より早い梅雨入りで連休もあり営業日数が少なかったのが出荷量が減少した主な要因であると考えられる。ただ、本年度は昨年度より県や市町の公共工事に関する予算も減少しているため、出荷量が減少することは間違いなさそうだ。
11. 生 コ ン・5月の出荷数量は、対前年同月比13%減であった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、大型工事の終了とそれに代わる官での新規工事の減少による。民間工事も前年比減少にて先行面での見通しはやや暗い。今後の展開としては、県・国等の公共工事は秋口以降に見込めるものの前年並みに数量確保は厳しいと思われる。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・業況感に大きな変化はない。また、設備操業度も横ばい状況で推移している。県内景況は、基調として持ち直しつつあるとのことであるが、相変わらず先行き不透明感が強く、景気動向の今後一層の好転が期待されるところである。
13. ス テ ン レ ス・国内の状況としては、ワクチン接種の開始に伴う収束への期待感もあり、設備投資も大手を中心に徐々に改善の兆しが見受けられる。海外については地域により状況は異なるが、取引の再開に向けた動きもある。但し、ワクチン接種の条件や入出国の際の隔離対応と課題も多く、これからの対応となる。感染の再拡大の状況を確認しながら、防止策を講じつつ企業活動レベルを維持するように努めているが、コロナ禍以前と同様までの回復はまだ見通しが立たない状況にある。

## <一般機器>

14. 機械金属・景況感は、前年同月と比べると、一部に改善の動きも見られるが、一方で、新型コロナウイルスの影響もあり、営業活動の停滞、投資の中止や延期等により売上高や引合いなどに、依然として厳しい状況も見られ、市場の変化が大きく、先行きの見通しを予測しづらい経営環境である。また、需要の停滞をはじめ、従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、経営上困難な課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <卸売業>

15. 食糧卸・米穀は消費減により価格低迷。一方、小麦粉、食用油は需要過多により高騰。

### <小売業>

16. ショッピングセンター・今月は先月と比較して、売上は111.3%(客数106.5%)だった。小売業においては、そもそもGWの連休がある5月が4月よりも売上が増えるのは当然で、景況が上向いてきたとは言えないだろう。問題は昨年・一昨年よりどんどん悪くなっている。前年対比で90.7%、一昨年対比で89.8%で、12月にオープンした大型店を含めても100.6%だ。売上構成比の高い核店舗、全国チェーンのベーシックカジュアル店やドラッグストアが苦戦した。

17. 畳小売業・梅雨入りが早かったため、一般家庭の仕事が少なかった。営業用は徳島アラート状態。新築現場は木材不足の影響を受けて遅れている。

18. 電気機器・昨年より仕入単価(商品・材料)共に値上り傾向にあり。入荷も遅れぎみの状況。

### <商店街>

19. 徳島市・営業時間短縮に伴い、飲食店の売上が下がっている。夜の人通りがまったく見られない。

20. 徳島市・GWに駅前、アミコで予定していたイベントは全て中止となり集客見込めずだった。図書館が21日まで閉館していた影響も大きく人通りがない。6月は三越のお中元に期待したい。

21. 鳴門市・5月は県内のコロナ増加により、例年の売り出しイベントを中止したので、売上はそんなになかった。商店街全店、同じような業況であると思う。

## <サービス業>

22. 土木建築業・徳島河川国道事務所の5月の動向は、先月と比較して工務課は新直轄工事の新規発注資料作成と一般道の新規工事発注に伴う業務が増加。局依頼調査資料は変わりなし。道路管理課は業務・工事等の大きな変化はなく、局依頼調査資料は相変わらず多い。交通対策課は課全体の工事・業務は少ないが、先月より倍近く増加。去年度との比較については、業務（工事発注に向けての、資料作成）は増加し、当然工事・業務金額は多くなっている。官側の職員体制が不十分なため、技術員の増員ができないか要望あり。設計人数は去年より2名増員で発注であったが、工務に1名増員できないか要望があった。この時期は人がおらず技術員の増員は難しい。
23. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比21.1%の1,029台、中古車は13.5%の394台、合計では18.9%の1,423台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比74.0%の936台、中古車1.1%の481台、合計は39.7%の1,417台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比28.4%の2,840台と増加。5月の販売台数は登録車・軽自動車ともに前年度を上回る結果となった。特に軽自動車の新車販売台数が前年度より74%増と大きくアップした。トータルでは28.4%の増加ではあるが、前年度は増税後の反動減に加えコロナ禍でもあり、販売台数が大きく落ち込んだ時期でもあった。今年度に期待したい。収益状況の目安とみている継続検査の台数は、登録車が9%増、軽自動車は-27.8%減。継続検査以外に点検促進などにもさらに力を入れる必要がある。
24. 旅行業・現況は依然厳しい状態である。GWにもかかわらず売上げは皆無だ。
25. ビル管理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・666円→R2年・796円）。このような急激な最低賃金の引き上げに伴う影響が確実に現れてきている。更に、働き方改革への対応（同一労働同一賃金など）、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険（厚生、健康）改革法の施行に向けての対応など多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ホテル分野のメンテナンス業においては、従業員に対して「雇用調整助成金」等による休業補償でしのいでいるものの、現在なお収束のめどが立たない状況にあり、低収入による従業員の職場離れが発生している。今後、従業員の確保定着が大きな課題となることが予想される。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところだ。全体としてみると、5月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら、現下の新型感染症の感染状況を見ると、今後、多様で深刻な影響が現れてくることも想定され、これを念頭に事業活動に当たっているところだ。

## <建設業>

26. 建設業・令和3年度の県下の公共事業の5月の発注状況は、全体で対前年比約23%の増となっている。国、県、市町村が増加している。5月末の累計でも対前年比約7%の増加となっているが、国や独立行政法人は減少している。
27. 板金工事業・住宅関係で木材の高騰と同時に鉄板が急激な値上がりとなっており、今後の見通しが立たない状態である。
28. 解体工事業・民間戸建て住宅解体工事について各市町において補金制度があり、4月以降県内全般に見積り依頼件数が多く見受けられる。
29. 電気工事業・新設住宅口数は210件だった。

## <運輸業>

30. 貨物運送業・新型コロナの影響は少しずつ改善の方向に向かっているが、取扱い業種によってはばらつきが出ている。例えば、飲食関連のビール等はいまだに低迷、自動車部品関係は復調方向に。一方、軽油単価は前月比2円強の値上りとなり、運送業界にとってはより厳しい現状となっている。
31. 貨物運送業・売上高については増加と不変が同程度の回答数で、コロナ禍での荷物の回復状況に運ぶ荷物によって差が出ているようである。増加と回答を得た事業者も前年がコロナの影響で非常に悪かったので、今回増加したものの前々年に比べるとまだコロナ前までは回復したとは言えないとのことであった。帰り荷がない状況は依然として続いているようで事業者は厳しい状況であるとの声をたくさん聞く。